



## 止葉展開期追肥、赤かび防除で収量・品質向上！

### 1. 出穂予想(3月16日時点)

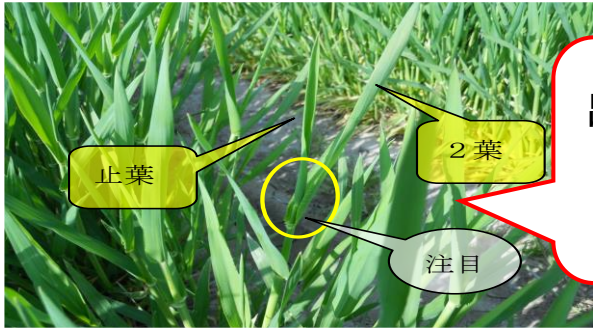
10月上旬播種 ⇒ 4月6～8日頃  
 10月中旬播種 ⇒ 4月9～11日頃  
 10月下旬以降播種 ⇒ 4月14～16日頃

※今後の気温により出穂期が前後する可能性あり。  
 ※海岸部は上記よりやや早まる。  
 ※昨年産の出穂期  
 4月11～17日

### 2. 今後の管理

#### (1) 止葉展開期追肥

一発肥料溶出の早まりから、登熟期間の窒素供給不足が懸念されるため、細麦粒の発生防止に向け、**全ほ場**出穂10～15日前に追肥を実施する。



出穂10日前とは、止葉が展開した大麦が圃場全体の30～40%を占めた頃です。草丈40cm頃が確認の目安です。

播種時期	施用時期	肥料銘柄・施肥量
10/上旬	3月22～29日頃	NK17号 : 12kg (N:2kg) 硫安 : 10kg (N:2kg)
10月中旬	3月25日～4月1日頃	NK17号 : 6kg (N:1kg) 硫安 : 5kg (N:1kg)
10月下旬	3月30日～4月6日頃	NK17号 : 6kg (N:1kg) 硫安 : 5kg (N:1kg)

※10月上中旬播種でも、葉色が濃い(葉色板5.0以上)場合はN:1kgの施肥とする。  
 ※止葉の展開状況を確認し、遅れないように実施する。  
 施用の遅れは、硝子率多発(品質低下)や効果低減につながる。

#### (2) 湿害対策(排水口の点検)

- ・出穂期以降は特に湿害に弱い。
  - ・今後は周囲の水田や用水からの漏水が生じやすくなる。
- ⇒ 湿害回避と追肥の効果を高めるため、排水溝を点検し、圃場内の排水に努める。



### (3) 赤かび病防除 等

出穂後3～5日の穂揃期、その1週間後の2回防除を徹底する。

防除時期 (4/10出穂の場合)	薬剤名	10aあたり 使用量	使用回数
<b>第1回</b> 4月13～15日 穂揃い期 出穂3～5日後	トップジンM 粉剤DL	4kg	出穂期以降は 1回以内
	トップジン Mゾル	薬剤67ml /水100 <sup>リットル</sup> 1,500倍希釈	
 <b>第2回</b> 4月20～22日 1回目の7日後	ワークアップ 粉剤DL	3kg	3回以内
	ワークアップ フロアブル	薬剤50ml /水100 <sup>リットル</sup> 2,000倍希釈	

※生育旺盛な圃場では、うどんこ病の多発が懸念される。  
 ⇒発生が見られたほ場は、出穂前に薬剤散布を実施する。  
 (トリフミン水和剤 100g/水100L)

### (4) 大麦ほ場内の周縁部の除草について

薬剤名	使用場所	対象 雑草	使用時期	10a当たり使用量		使用 回数
				薬量	希釈 水量	
バスタ液剤	圃場内の 周縁部	1年生 雑草	収穫7日前まで (雑草生育期)	300～ 500ml	100～ 150 <sup>リットル</sup>	3回 以内
プリグロックスL	圃場内の 周縁部	1年生 雑草	雑草生育期	600～ 1000ml	100～ 150 <sup>リットル</sup>	4回 以内
ラウンド アップマック スロード	圃場内の 周縁部	1年生 雑草	収穫前日まで (雑草生育期)	200～ 500ml	50～ 100 <sup>リットル</sup>	3回 以内

※ザクサ液剤は麦類に登録がないため、使用できません。

<1ヶ月予報(3月18日～4月17日) 新潟地方気象台3/16発表 >

期間の前半は、気温がかなり高くなる見込み。

○気温 : かなり高い                      ○降水量: 平年並

○日照時間 : 平年並

**大麦現地研修会** 日時: 3月27日(月) 10:30～

会場 (株)アグリとくみつ様ほ場、(有)ハヤシ様ほ場 (2ヶ所)